

D.結論

- 1) 6種類の本ゾトリアゾール類の基本物性およびHPLCとLC/MS/MS分析の例から、魚介類試料中の本ゾトリアゾール類を高感度で迅速測定できる可能性を示した。
- 2) 従来のアルカリ分解・抽出法の問題点を改善し、新規の抽出液分解法を提案して分解条件と分解後の抽出条件を決定した。
- 3) 今後は、HPLC および LC/MS/MS での分離定量の最適条件と適用範囲を明らかにし、精製方法等の前処理条件を決定し、代表的な魚介類への適用性を確認する予定である。

E.参考文献

- 1) 経済産業省「化学物質の審査および製造等の規制に関する法律」第一種特定化学物質 関係 http://www.meti.go.jp/policy/chemical_management/03kanri/a11.htm
- 2) 環境省、中央環境審議会環境保険部会、第 58 回化学物質審査小委員会資料「2-(2H-1,2,3-ベンゾトリアゾール-2-イル)-4,6-ジ-tert-ブチルフェノールについて」「2-(2H-1,2,3-ベンゾトリアゾール-2-イル)-4,6-ジ-tert-ブチルフェノールの分解性、蓄積性及び人への長期毒性について」、「今後の対策について」など、<http://www.env.go.jp/council/05hoken/yoshi05.html>
- 3) 環境省環境保険部環境安全課、化学物質と環境、平成 17 年度化学物質分析法開発調査報告書、生物中 2-(2H-1,2,3-ベンゾトリアゾール-2-イル)-4,6-ジ-tert-ブチルフェノール及び 2,4-ジ-tert-ブチル-6-(5-クロ-2H-1,2,3-ベンゾトリアゾール-2-イル)-フェノールの分析法、Ⅲ-438~453(平成18年7月)
- 4) 厚生労働省「食品中のダイオキシン類及びコプラナーPCB 測定方法暫定ガイドライン」、http://www1.mhlw.go.jp/topics/dioxin_13/so_kutei.html
- 5) 堤 智昭、天倉吉章、松本輝樹、伊藤日本

男、栗原 浩、佐々木久美子、米谷民雄、加熱流下抽出装置による市販魚中ダイオキシン類抽出法の検討、第 14 回環境化学討論会要旨集、p.332-333(2005) :平成 16 年度厚生労働科学研究補助金(食品の安全性高度化推進研究事業)「ダイオキシン類による食品汚染実態の把握に関する研究」報告書(2005)

F.研究業績

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし